

「アユを知って おいしく食べよう！」学習指導案

■活動の目的

- ・アユの生態や体の特徴を学ぶ。
- ・アユを食べ、アユの生態を学ぶことで、地域ぐるみの河川環境保全の取り組みにつなげる。
- ・「食」の視点を取り入れることで、命に感謝しながら水産資源を食べる「食育」を実践する。

■用意するもの

- ・教材「紙芝居」＝「アユを知って おいしく食べよう！」
- ・アユ（鮮魚）
- ・金串、塩
- ・アユを焼く道具（BBQ コンロや炭など）
- ・食器類

■参考資料

- ・「アユのトリビア：アユ・おもしろ話」福井県内水面総合センター、2005年
PDF版をダウンロードできます。 <http://www.fukui-naisuimen.com/trivia.html>
- ・「さばけるチャンネル」日本さばけるプロジェクト：アユの串打ちと化粧塩の動画サイト
<http://sabakeru.uminohi.jp/?p=1125>

■活動の展開

おもな活動内容	活動内容	注意点
導入	事前アンケートを行う。 ・アユを食べたことがあるか？ ・アユは海で生活する時期があることを知っているか？ ・アユは何を食べているのか？ ・アユの釣り方を知っているか？	・事後アンケートとの数値変化がわかるようなアンケート内容にする。
アユの観察	1. 指導者の紹介 2. アユを配布する 3. アユを観察する ・教材「紙芝居」を活用する。 ・体全体、ひれ、口、えら、鼻、お尻の穴の位置や特徴などを観察する。 ・ひれの枚数、形状から役割を考える。左右のバランスを保つ、方向を変える、始動・停止などの役目をもつ。 ・尾びれは、前進する力を生みだす。 「二叉形の尾びれをもつ魚は泳ぎが得意です。円形の尾鰭をもつ魚はあまり泳	・バットやトレー、アルミホイルなどにアユをのせる。 ・ひれを広げて、各ひれの形を確認する。 ・アユの尾びれは二叉型⇒泳ぎが得意。

	<p>ぎ回りません」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「脂びれは、サケ科やハダカイワシ科などの魚類がもつひれです」。 <p>4. 黄斑の説明をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天然アユ（または養殖アユ）を見ながら、黄斑の有無を確認する。 ・黄斑は体色のひとつで、アユの活性によって変化する。縄張り争いで強いアユは黄斑が濃く、尾部も黄色を呈している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アユは脂びれをもつ⇒サケやマス類と同じ特徴。 ・動画を投影して見られる環境であれば、縄張り争いの動画を見せる。
<p>アユの漢字から、アユの生活史などを知る</p>	<p>アユの実物と教材「紙芝居」を活用。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 香魚 <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリやスイカのおいがすることを確認する。 2. 銀口魚 <ul style="list-style-type: none"> ・口と歯を観察する。唇が白いのでこの漢字があてられている。この口と歯で、石についた藻をけずりとして食べている。 3. 年魚 <ul style="list-style-type: none"> ・アユは1年しか生きられない。 ・冬の間は、沿岸域で半年ほど生活している。だから、アユを守っていくには、地元の海も重要であることを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活史を理解することで、海と川のつながりが重要であることを理解する。
<p>アユの調理と試食 (40分)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 串を打つ <ul style="list-style-type: none"> ・「踊り串」(「登り串」ともいう)の打ち方を説明する。これは、魚が川を泳ぐ姿に見立てた串の打ち方。 ・参加者に串を打つ体験をしてもらう。 2. 塩をふる <ul style="list-style-type: none"> ・「かざり塩」(「化粧塩」ともいう)を施す。焦げやすいヒレの部分に多めに塩をまぶし、焦げないようにする工夫。ひれを立てて美しく仕上げる効果もある。 ・参加者に体験してもらう。 3. アユを焼く 4. アユを試食する 	<ul style="list-style-type: none"> ・アユの命に感謝する気持ちを大切に、おいしくいただく(食育)。
<p>まとめ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. まとめのお話 <ul style="list-style-type: none"> ・「アユは川にすんでいます、稚魚の時期は冬で、半年ほど海ですごします」。 ・「アユは海と川を行き来するため、健全 	<ul style="list-style-type: none"> ・海産の天然遡上アユがいなくなった川では、アユが

	<p>な海と川の両方が必要です」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海から遡上してくるアユが生息している地域は、豊かな海と川が存在し、海と川のつながり（連続性）が維持されていることを示しています」。 ・「アユは、地域の川と海の環境を示す指標生物です」。 <p>2. 事後アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の前と後で、児童生徒にどのような変化があったか評価する。 ・質問項目は、事前アンケートと同じ内容にする。 	<p>なぜ遡上できなくなったのか、参加者と一緒に原因を考えてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートと事後アンケートの項目は同じ内容とし、数値変化を記録として保存しておく、教育効果を検証するときに役立つ。
--	---	--

作成：田原大輔（福井県立大学 海洋生物資源学部 准教授）